

〔優秀賞〕

◇ 題名 ひまわりの花のように ◇

田沼小学校 6年 亀山 莉緒菜

私は、ひまわりの花が大好きです。なぜかという、ひまわりの花びらは明るい色で、何本もまとまって咲いているので、仲が良さそうに見えたり、元気ももらえたりするからです。だから、つらい時にはひまわりの花を見ると元気が出ます。

私は、ひまわりの花のような社会になってほしいと思います。つまり男性と女性が平等になってほしいということです。これは私が5年生の時に学んだSDGs 17の目標に入っている「ジェンダー平等」と共通しているなと思いました。

私の生活を思い返してみると、お父さんは会社員でお母さんは介護の仕事をしています。二人とも朝から晩まで働いています。

お母さんは仕事が終わるとすぐ、私の習い事に送ってくれます。その後、お母さんはご飯を作ったり、洗濯物をたたんだりといそがしくしています。お母さんが仕事で帰りがおそいときや宿直でいないときには、お父さんが代わりにご飯を作ったり、洗濯物をたたんでくれたりしています。

お父さんは、仕事が終わると、私の習い事の迎えに来てくれます。お父さんが仕事で遅いときは、お母さんが家事をしてくれます。

また、昨年、私とお母さんが寝込んでしまった時には、お父さんが買い物をしてご飯を作ってくれたり、他の家事を全部やってくれたりしながら、私とお母さんをかんびょうしてくれました。

そのようなことから、私は「男性だから」

とか「女性だから」ではなく、男女お互いが「自分らしさ」を出していける社会になってほしいと思いました。

そのような社会にしていくためには、積極的に新しいことにチャレンジし、自分に合う何かを見つけることが大切なんじゃないかなと私は思いました。

例えば、ひまわりの花はみんないっせいに東の空を見上げます。だから私はみんなが同じ方向を向いて前に進んでいける「自分らしさ」を出していけるようになることが大切だと思います。

私は、「男性だから」「女性だから」ではなく、「自分らしさ」を大切にしてほしいと思っています。それは、性別に関係なく全ての人々が新しいことにチャレンジできる社会になってほしいと思っているからです。

しかし、いくら男女平等と言っても、体力の差や得意、不得意だってあるので、無理ではないかと思っている人もいるのではないのでしょうか。だからこそ私は、助け合いや協力が必要なのではないかと思います。それを誰もがちょっとずつでもできるようになれば、みんなが「自分らしさ」を發揮しながら、あのひまわりの花のように前を向いて進み、明るく、元気で笑顔あふれる社会を作っていけるのではないかと思います。